

2019年1月号 FP武蔵野グループ



今村幸雄(CFP®認定者)

認知症は病気である

日本の認知症患者は65歳以上で7人に1人、予備軍も含めると4人に1人が認知症もしくはその疑いがあるといわれています。しかも、この数字は2012年のものであり、今後どんどん増えてくると考えられます。国民病と言われる癌は、生涯にかかる割合は2人に1人といわれていますが、患者数にすれば65歳以上では60万人強と認知症の420万人に比べれば少ない数になっています。認知症は65歳以上の人が最も多く患っている病気にも関わらず対策を講じている人が少ないのも特徴です。そもそも自分は大丈夫だと思っている人が極めて多く、またこの病気にかかることが恥と考える人も多くいます。認知症とはアメリカで最も偉大な大統領といわれるレーガンさんやあの鉄の女サッチャー元英国首相も患っており、何ら恥じる病気ではありません。

更に、認知症は癌と同じく今の医療では完全な治療法がまだ見つかっていません。ただし、癌は発病すると自分が苦しみ、命を落とす場合も多いのに対し、認知症は家族が大変な思いをし、且つそのまま生き続ける可能性が高い病気です。

患ってからでは遅い認知症対策

認知症は、自分の記憶をなくしてしまい判断力がなくなる病であるから、この病気にかかると金融機関での手続きや契約行為は一切できなくなります。こういう行為は家族が代わってできないため、日常生活に深刻な影響が出てきます。また、外出して事故でも起こせば家族が責任を負わなければならないケースも出てきます。

さらに、認知症にかかった後は後見人を付けるしか方法がありませんが、その後見人制度が現段階では極めて使いにくい制度となっています。そのため、認知所にかかる前に対策を講じておく必要が高いのですが、ほとんどの人がそのようなことをしていないのが現状です。

FP 武蔵野グループでは、別添のとおり 2 月 17 日に認知症対策のセミナーを行いますので、是非読者のみなさま方のご来場をお待ち申し上げます。

4 人に 1 人が発病するこの病気の対策を分かり易く且つ、すぐにでも実行できる方法を専門家から多数お話しさせていただきます。

以上